

V 調査結果④【各地区のリスク該当状況】

各地区の対象者の基本属性（年齢・性別・要介護認定状況）

本章における地区の分類については、p 8における9つの居住地区のうち、「扇洲地区」「檜山地区」「鶴形地区」の3地区を「東部地区」に、さらに「二ツ井地区」「富根地区」の2地区を「二ツ井地区」に統合し、①本庁地区、②南地区、③向能代地区、④東部地区、⑤常盤地区、⑥二ツ井地区の6地区としている。

■年齢

上段:度数 下段:%	年齢						
	合計	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答
全体	1262	265	279	289	230	183	16
	100.0%	21.0%	22.1%	22.9%	18.2%	14.5%	1.3%
本庁地区	539	123	118	125	103	67	3
	100.0%	22.8%	21.9%	23.2%	19.1%	12.4%	0.6%
南地区	106	25	25	27	17	10	2
	100.0%	23.6%	23.6%	25.5%	16.0%	9.4%	1.9%
向能代地区	164	28	38	33	27	37	1
	100.0%	17.1%	23.2%	20.1%	16.5%	22.6%	0.6%
東部地区	89	21	19	20	15	14	-
	100.0%	23.6%	21.3%	22.5%	16.9%	15.7%	-
常盤地区	37	6	8	10	7	6	-
	100.0%	16.2%	21.6%	27.0%	18.9%	16.2%	-
二ツ井地区	293	56	63	71	57	45	1
	100.0%	19.1%	21.5%	24.2%	19.5%	15.4%	0.3%
無回答	34	6	8	3	4	4	9
	100.0%	17.6%	23.5%	8.8%	11.8%	11.8%	26.5%

年齢については、「向能代地区」、「常盤地区」、「二ツ井地区」では後期高齢者比率が相対的に高く、逆に「南地区」では相対的に低い。

■性別

上段:度数 下段:%	性別			
	合計	男	女	無回答
全体	1262	492	756	14
	100.0%	39.0%	59.9%	1.1%
本庁地区	539	211	325	3
	100.0%	39.1%	60.3%	0.6%
南地区	106	39	67	-
	100.0%	36.8%	63.2%	-
向能代地区	164	64	99	1
	100.0%	39.0%	60.4%	0.6%
東部地区	89	38	51	-
	100.0%	42.7%	57.3%	-
常盤地区	37	16	21	-
	100.0%	43.2%	56.8%	-
二ツ井地区	293	119	174	-
	100.0%	40.6%	59.4%	-
無回答	34	5	19	10
	100.0%	14.7%	55.9%	29.4%

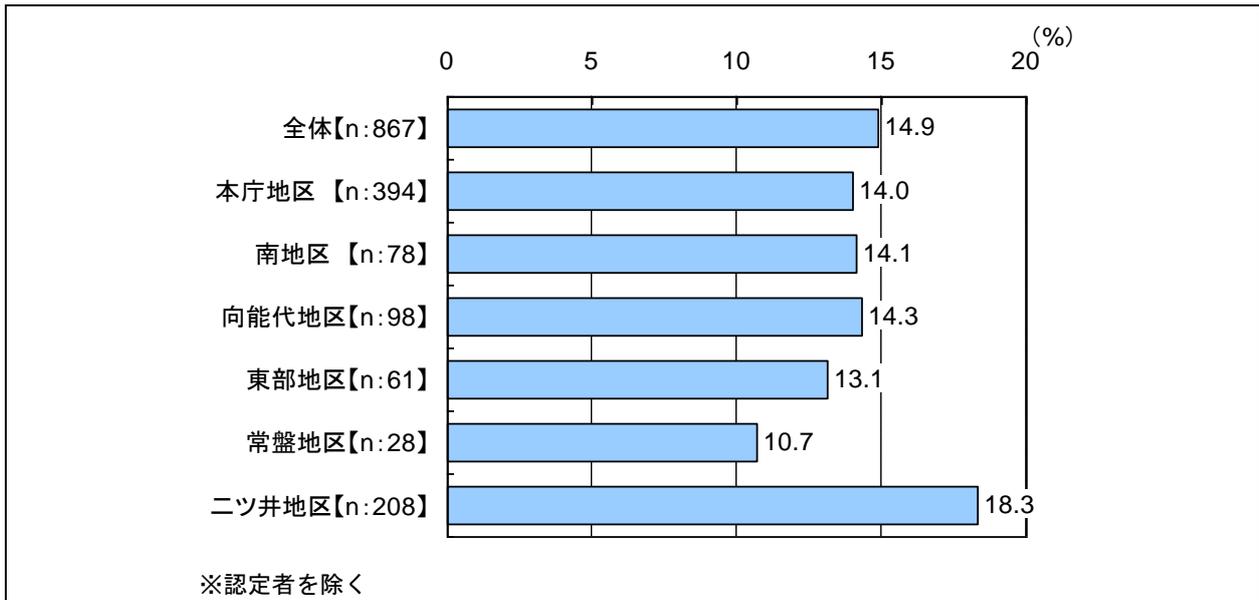
男女比については、「南地区」で、「女」の構成比が相対的に高くなっている。

■要支援・要介護認定状況

上段:度数 下段:%	要介護度									
	合計	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
全体	1262	944	47	30	44	25	23	16	28	105
	100.0%	74.8%	3.7%	2.4%	3.5%	2.0%	1.8%	1.3%	2.2%	8.3%
本庁地区	539	415	23	13	18	12	7	6	8	37
	100.0%	77.0%	4.3%	2.4%	3.3%	2.2%	1.3%	1.1%	1.5%	6.9%
南地区	106	86	3	-	4	3	1	1	3	5
	100.0%	81.1%	2.8%	-	3.8%	2.8%	0.9%	0.9%	2.8%	4.7%
向能代地区	164	108	10	7	8	4	9	2	8	8
	100.0%	65.9%	6.1%	4.3%	4.9%	2.4%	5.5%	1.2%	4.9%	4.9%
東部地区	89	68	3	2	4	-	2	1	2	7
	100.0%	76.4%	3.4%	2.2%	4.5%	-	2.2%	1.1%	2.2%	7.9%
常盤地区	37	29	-	2	-	-	-	2	-	4
	100.0%	78.4%	-	5.4%	-	-	-	5.4%	-	10.8%
二ツ井地区	293	224	8	5	10	6	4	4	7	25
	100.0%	76.5%	2.7%	1.7%	3.4%	2.0%	1.4%	1.4%	2.4%	8.5%
無回答	34	14	-	1	-	-	-	-	-	19
	100.0%	41.2%	-	2.9%	-	-	-	-	-	55.9%

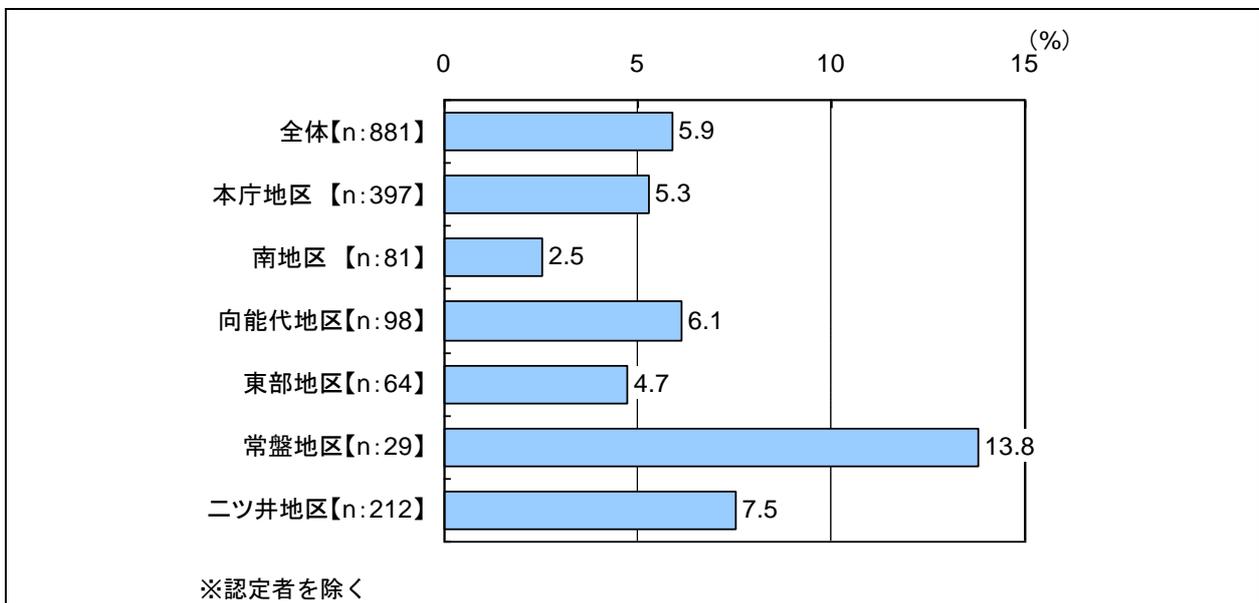
要支援・要介護認定を受けていない「自立」の割合は、「南地区」で81.1%と最も高く、逆に、「向能代地区」では65.9%と最も低い。その他の地区についてはいずれも7割以上を占めている。

1 運動器



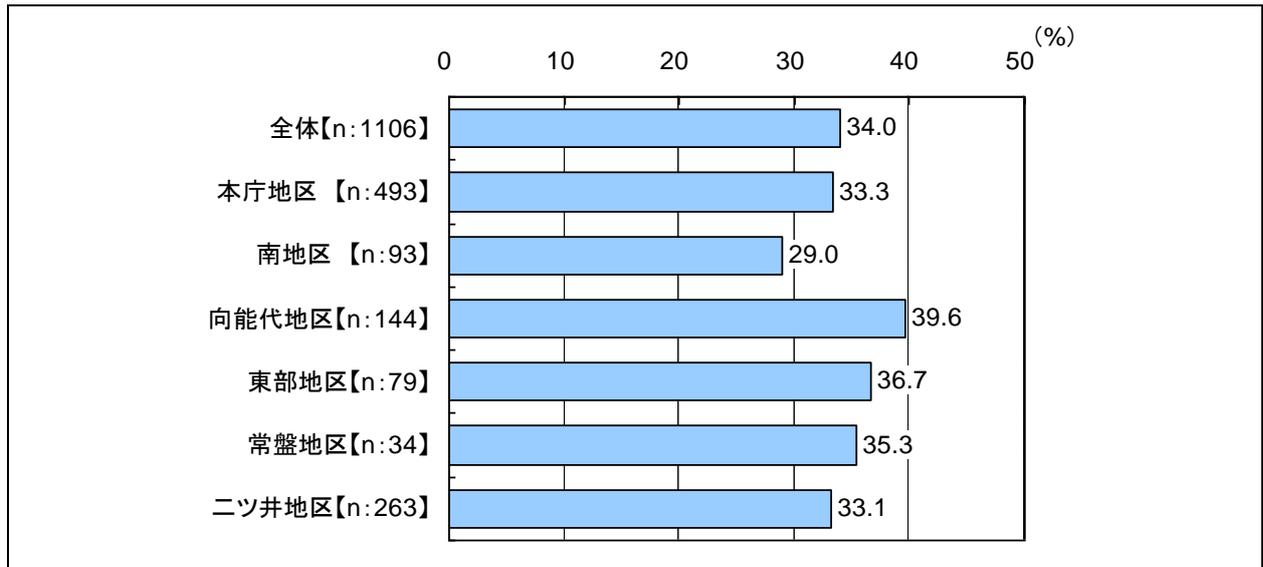
運動器リスクについて、地区別に該当者割合をみると、「二ツ井地区」で最も高い数値を示す一方、「常盤地区」では最も低い数値となっている。

2 閉じこもり



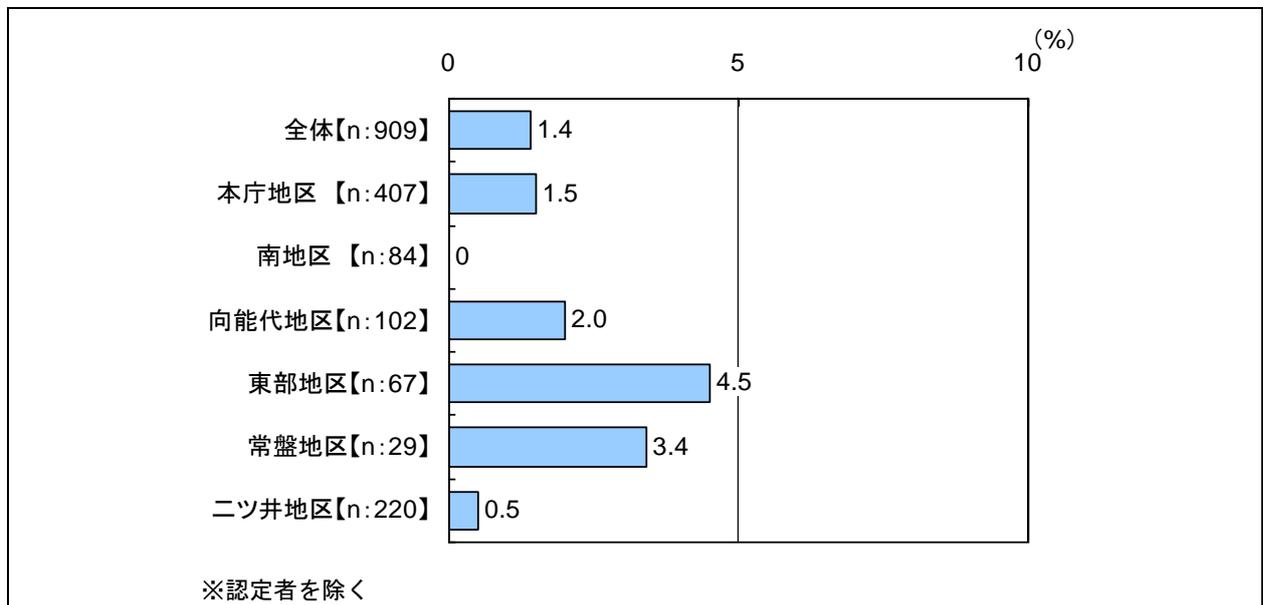
閉じこもりリスクについて、地区別に該当者割合をみると、「常盤地区」で突出して高い数値を示す一方、「南地区」、「東部地区」では相対的に低い数値となっている。

3 転倒



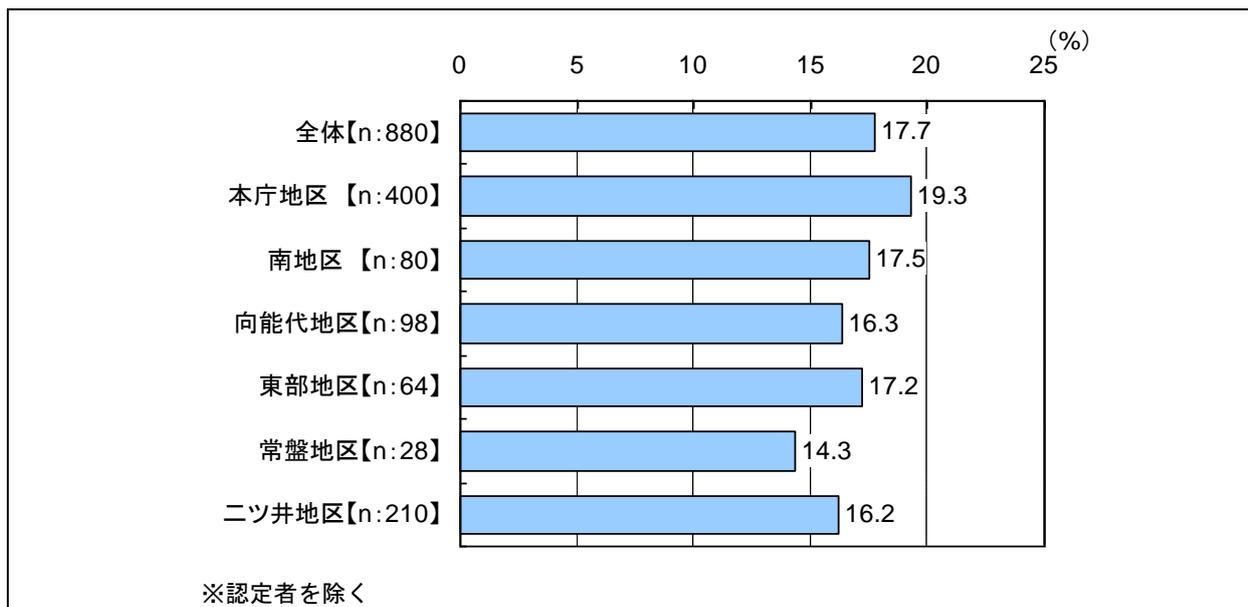
転倒リスクについて、地区別に該当者割合をみると、「向能代地区」、「東部地区」、「常盤地区」で相対的に高い数値を示す一方、「南地区」では最も低い数値となっている。

4 栄養



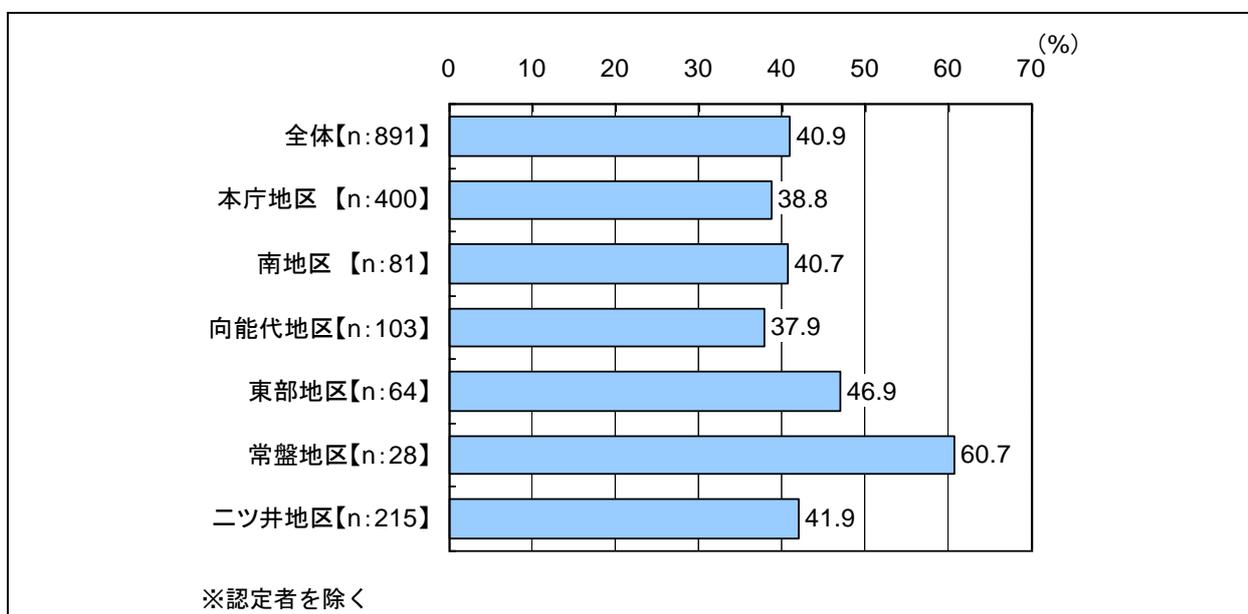
栄養リスクについて、地区別に該当者割合をみると、「東部地区」、「常盤地区」で相対的に高い数値を示している。

5 口腔



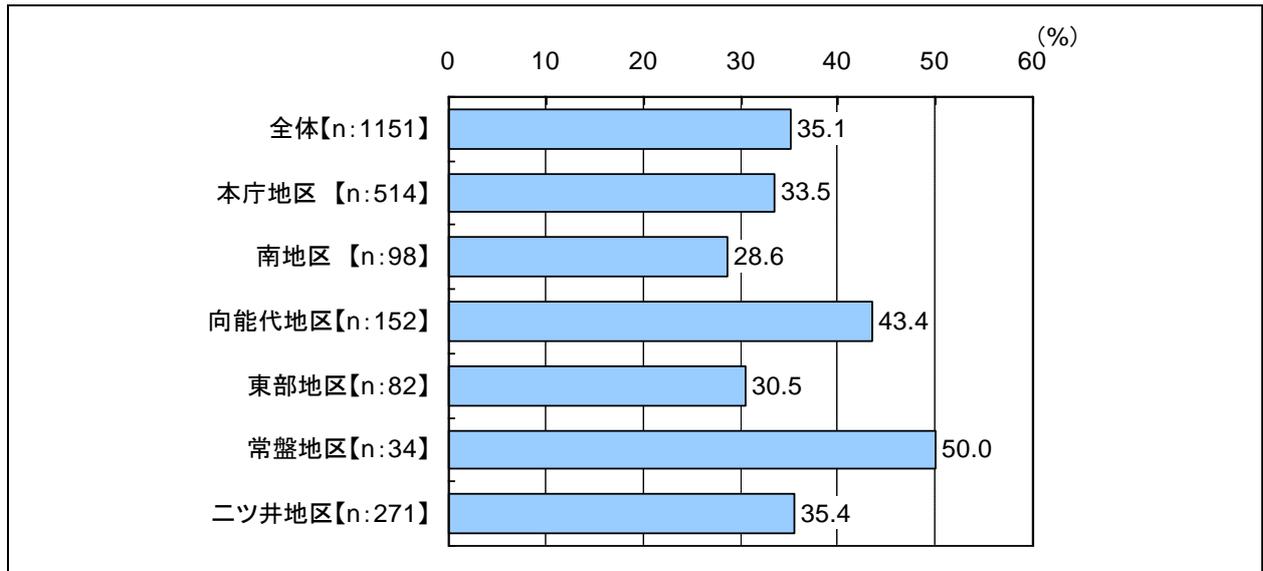
口腔リスクについて、地区別に該当者割合をみると、「本庁地区」においてのみ「全体」の数値を上回り、最も高い数値を示している。一方、「常盤地区」では最も低い数値となっている。

6 認知症予防



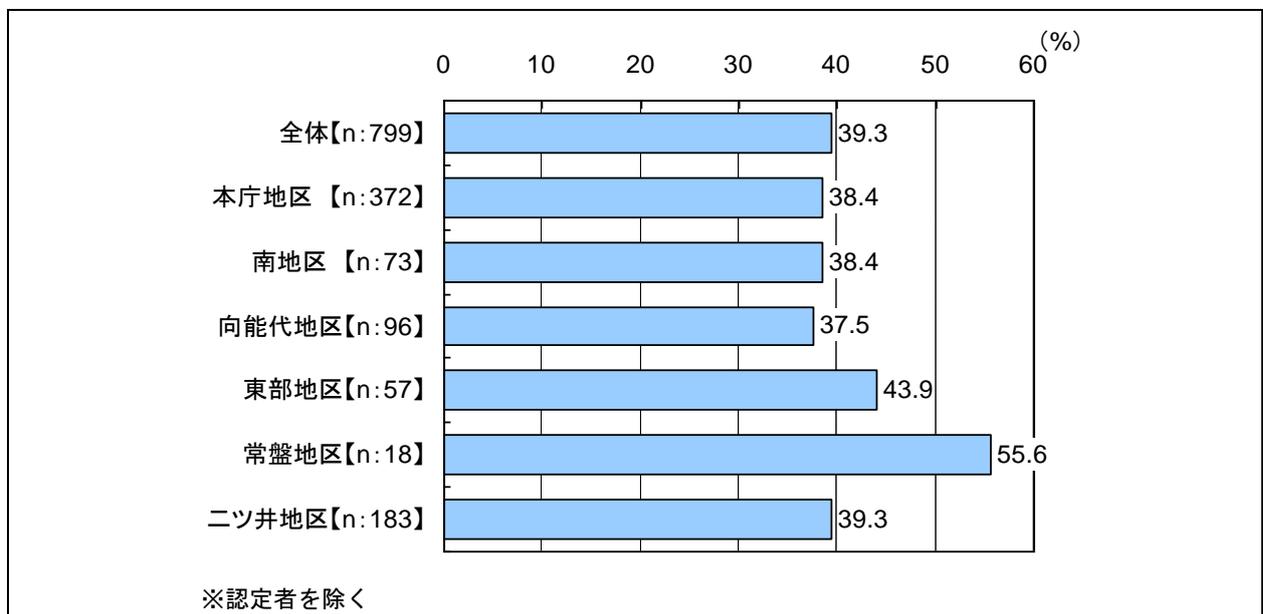
認知症予防について、地区別に該当者割合をみると、「常盤地区」で突出して高い数値を示しているほか、「東部地区」、「ニツ井地区」で全体の数値を上回っている。

7 認知機能障害程度（CPS）



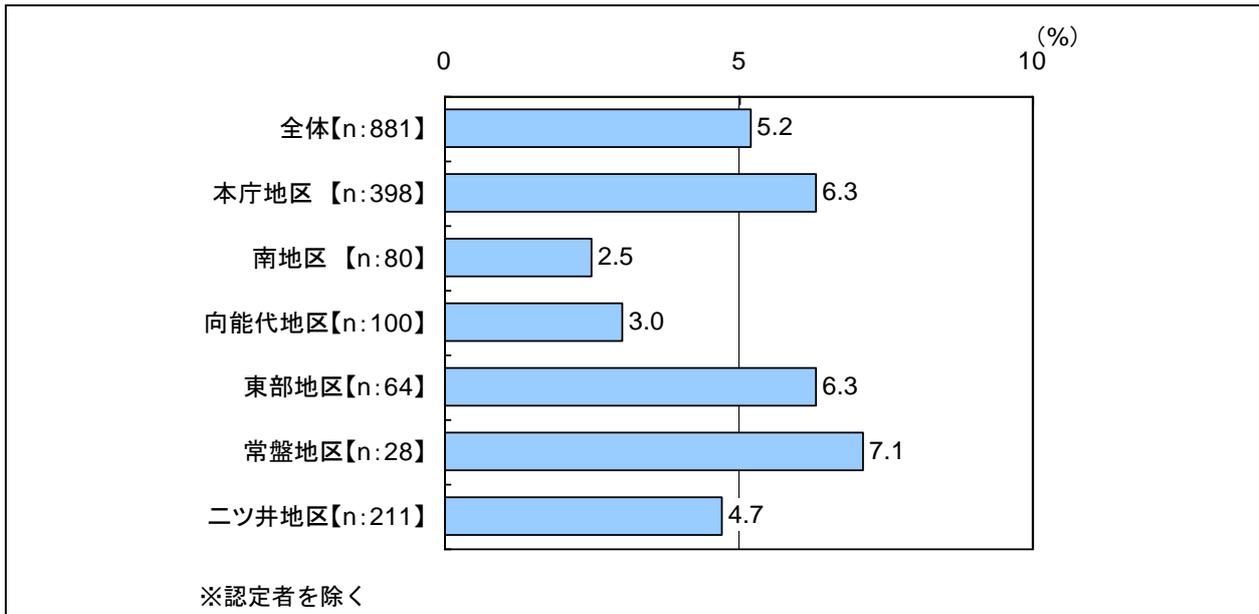
認知機能障害程度（CPS）について、地区別にリスク者割合をみると、「向能代地区」、「常盤地区」で相対的に高く、逆に「南地区」、「東部地区」では相対的に低い数値となっている。

8 うつ予防



うつ予防について、地区別に該当者割合をみると、「常盤地区」で最も高く、半数以上が該当しているほか、「東部地区」においても相対的に高い数値を示している。

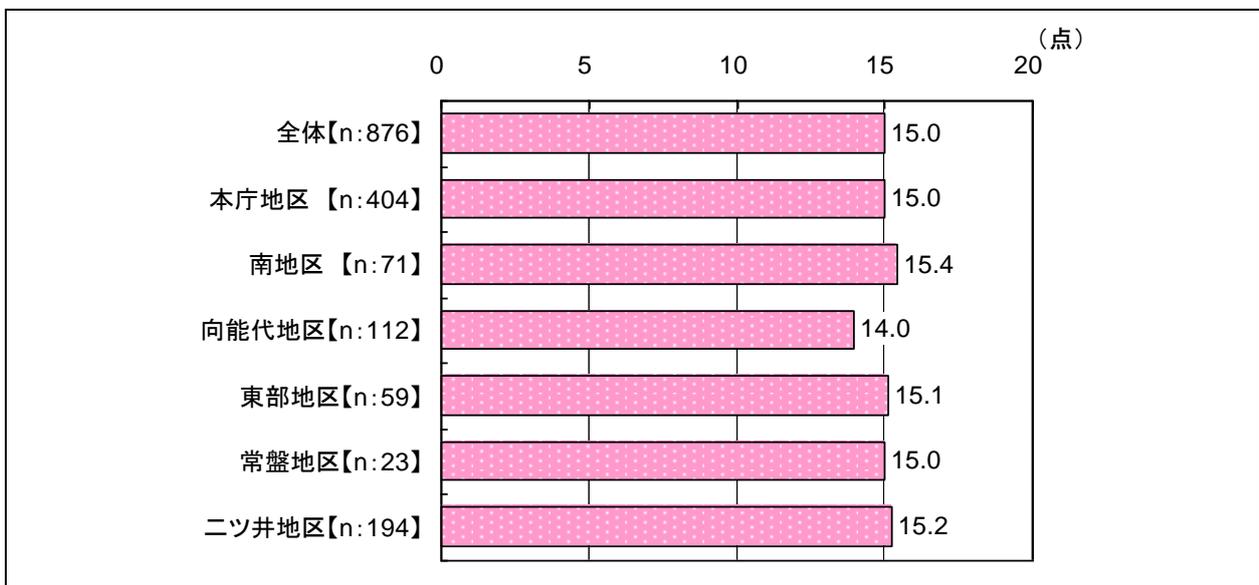
9 虚弱



脆弱判定について、地区別に該当者割合をみると、「常盤地区」で最も高いほか、「本庁地区」、「東部地区」においても相対的に高い数値を示す一方、「南地区」、「向能代地区」では相対的に低い数値となっている。

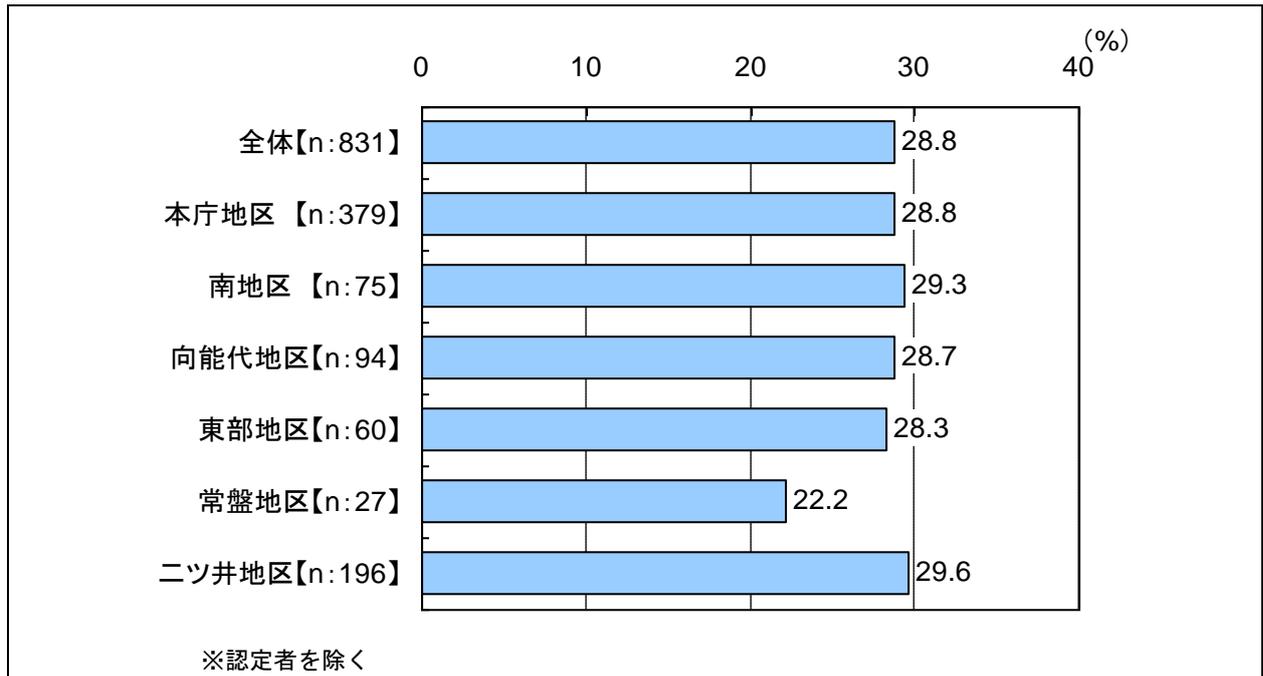
10 基本チェックリスト得点

※この項目の指標はリスク該当者割合でなく、肯定的な数値であることに注意。



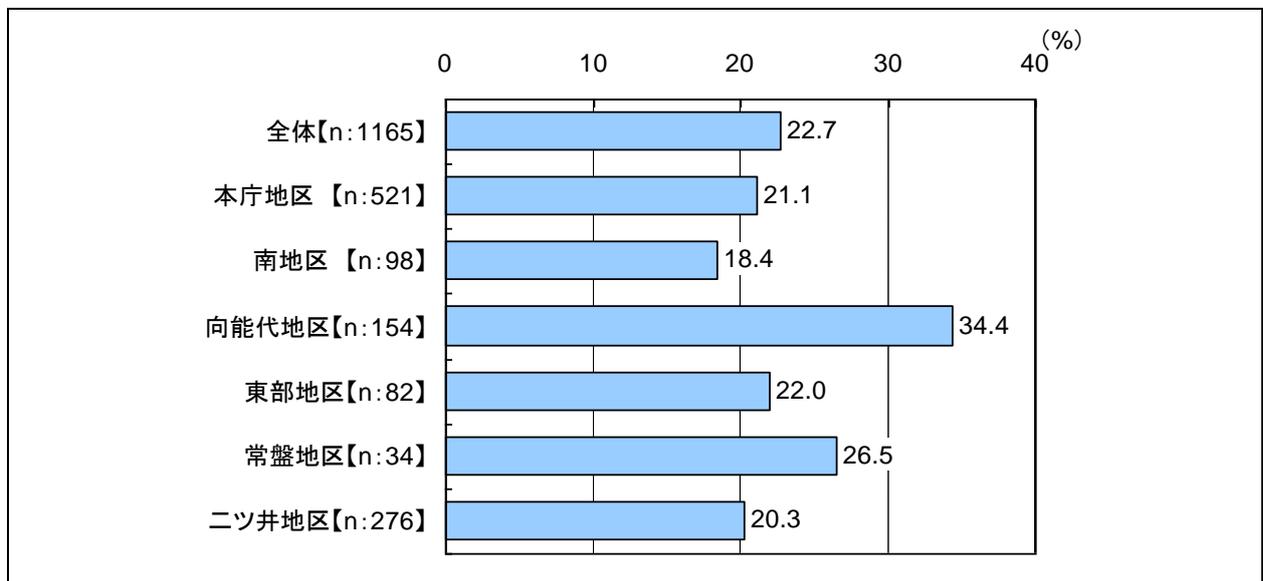
基本チェックリスト (ADL) について、地区別に平均得点をみると、「向能代地区」においてのみ全体の数値を下回っている。

11 二次予防対象者



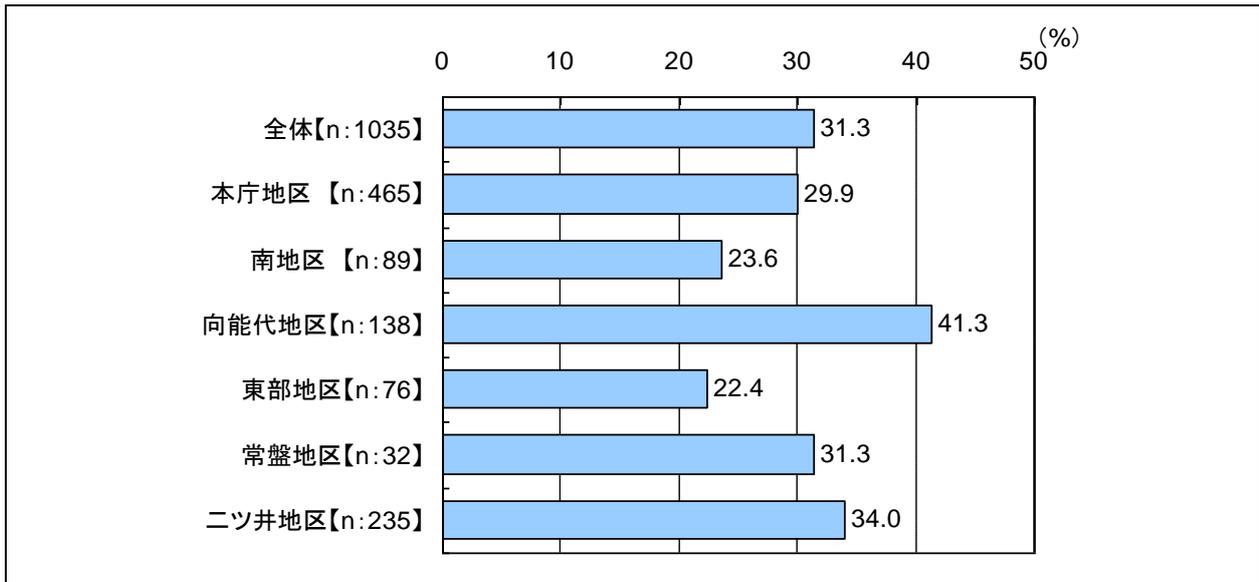
二次予防対象者について、地区別に該当者割合をみると、「常盤地区」で相対的に低い数値を示しているが、その他の地区についてはそれほど大きな差はないことが分かる。

12 手段的自立度 (IADL)



手段的自立度 (IADL) について、地区別に低下者割合をみると、「向能代地区」で他の地区よりもひとときわ高いほか、「常盤地区」においても相対的に高く、「全体」の数値を上回っている。一方、「南地区」では最も低い数値を示している。

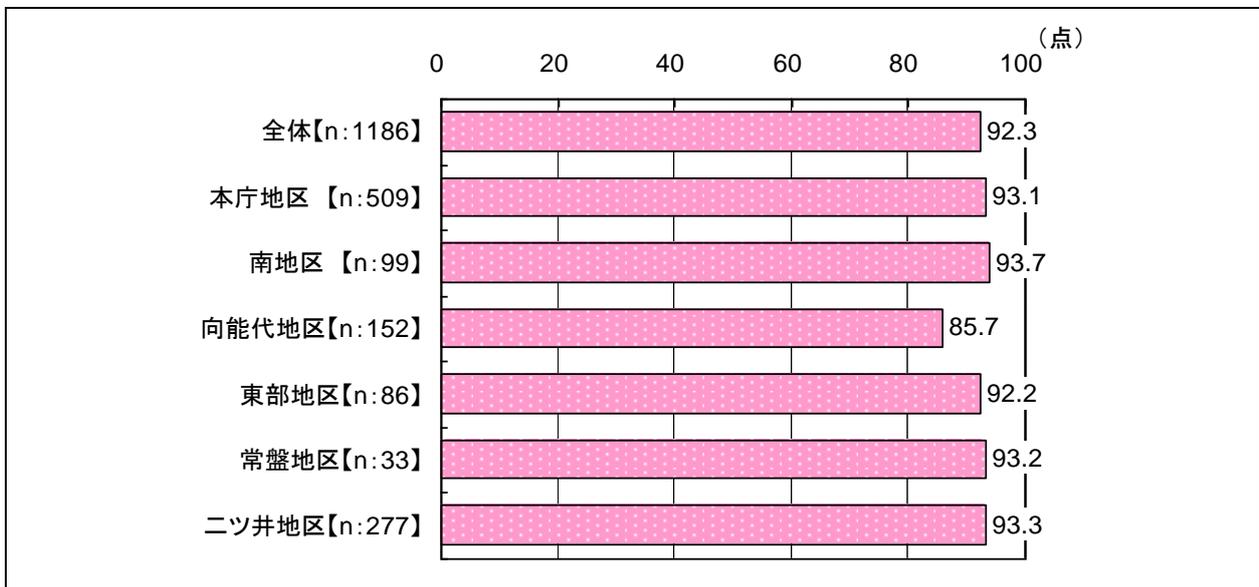
13 生活機能総合評価



生活機能総合評価について、地区別に低下者割合をみると、「向能代地区」でひとときわ高い数値を示す一方、「南地区」、「東部地区」では相対的に低い数値となっている。

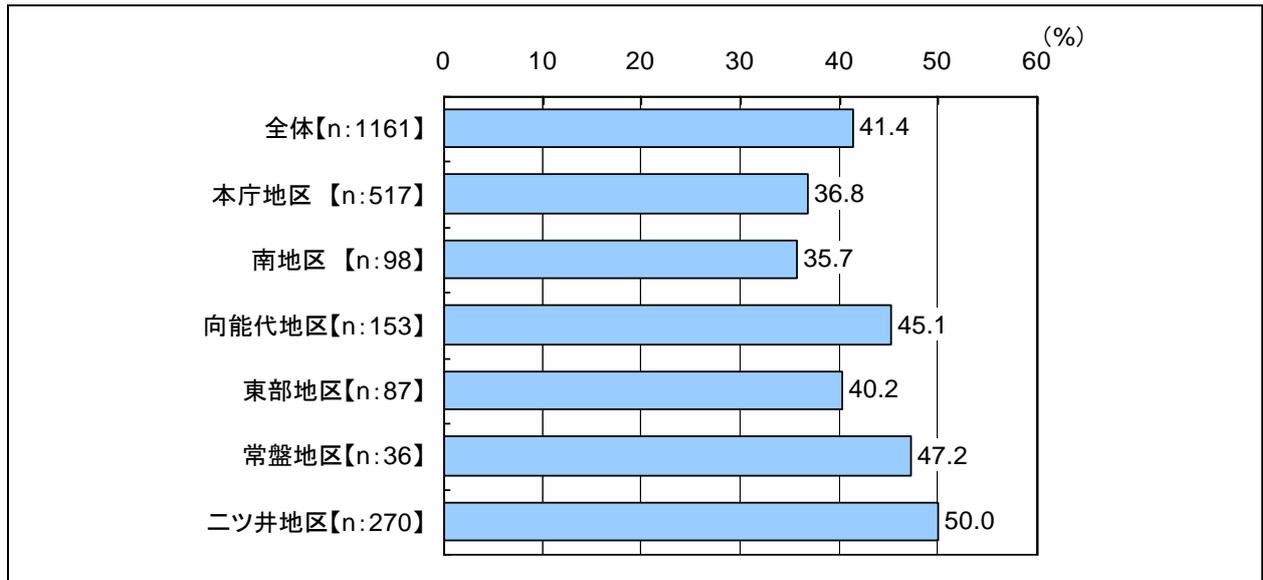
14 日常生活動作（ADL）

※この項目の指標はリスク該当者割合でなく、肯定的な数値であることに注意。



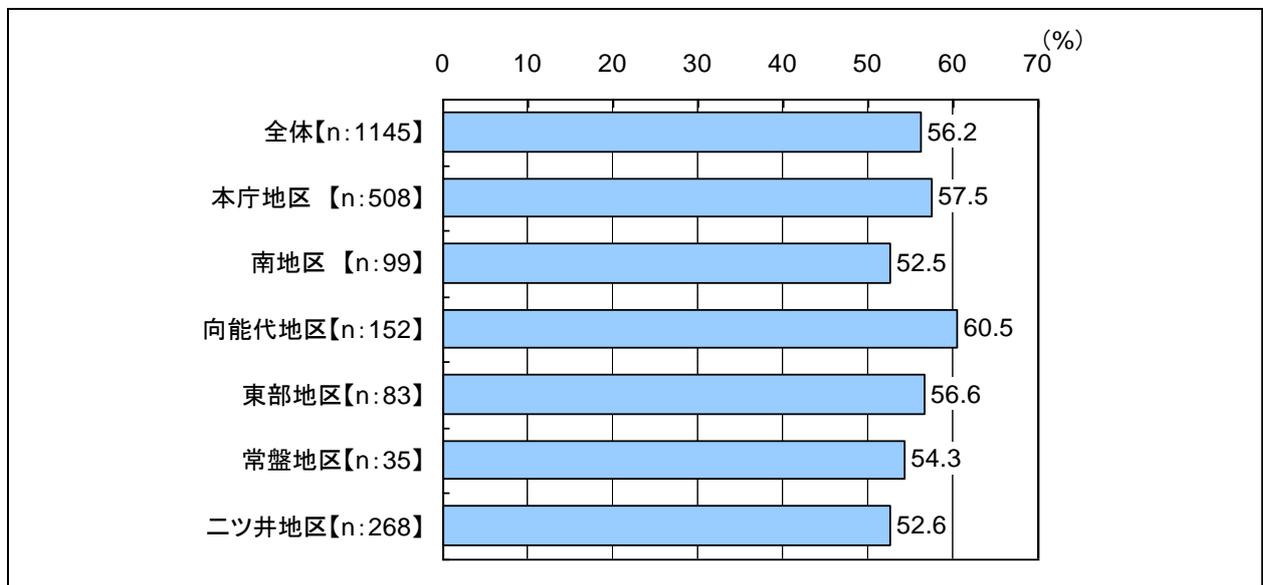
日常生活動作（ADL）について、地区別に平均得点をみると、「向能代地区」で相対的に低い数値を示している。

15 知的能動性



知的能動性について、地区別に低下者割合をみると、「二ツ井地区」で最も高いほか、「向能代地区」、「常盤地区」でも相対的高い数値を示す一方、「本庁地区」、「南地区」では相対的に低い数値となっている。

16 社会的役割



社会的役割について、地区別に低下者割合をみると、「向能代地区」で最も高い数値を示す一方、「南地区」、「二ツ井地区」では相対的に低い数値となっている。

